

ブレインストーミングとKJ法

ブレインストーミングは、新たなアイデアを生み出すための方法の一つです。

KJ法は、ブレインストーミングなどによって得られた発想を整序し、問題解決に結びつけていくための技法です。

ブレインストーミングとは質より量に重きをおいて様々な角度からアイデアを出し合う事です。そして相手のアイデアに否定をしないこと、結論を出さないことをルールとして新しいアイデアを生み出そうとする手法です。

KJ法の基本

まずは、ブレインストーミングなどで出されたアイデアや意見、または各種の調査の現場から収集された雑多な情報を1枚ずつ小さなカード（紙キレ）に書き込みます。

次に、それらのカードの中から近い感じのするもの同士を2、3枚ずつ集めてグループ化していきます。

続いて、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していきます。

さらに、必要に応じて図解を文章化していきます。

こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していきます。

KJ法の手順

〔1〕ステップ1. 『キーワード収集（カード記録）』

「探検」と呼ばれる段階で、探検には、外部探検と内部探検とがあります。外部探検とは、様々な目的による調査の現場で情報や事実を収集することです。内部探検とは、関係当事者の頭脳の中を探検することで、各自の頭脳に蓄えられた知識や経験をブレインストーミングなどによって吐き出すことです。

収集された情報は1つ1枚ずつ、小さな「カード」に書き込んでいきます。

※カードへの記録の仕方

- ①テーマを決め、関連すると思われる事実や意見をできる限りカードに記録する。
- ②この際、内部的な情報だけではなく、外部から収集した情報も扱う。

③記録するときは一枚のカードに一つの情報を記録するようにする。

④たとえ“もやもや”したままでも、とにかく書き出していく。

〔2〕ステップ2. 『グルーピング』

カードのグループを編成していく作業で、さらに次のような段階に分けて進めていきます。

1) カードひろげ

カード群を机の上などにディスプレイして、1枚1枚のカードに書かれた内容を丹念に読みとっていきます。

2) カードあつめ

- ・近い感じのカードを集めます。
- ・たくさんでなくともよいです（2、3枚ずつでも構わない）。
- ・いわゆる“離れザル”、“一匹狼”は無理にどこかへ入れないようにします。
- ・あわてず、ゆっくり、息の長い根気で。

3) 表札づくり

- ・カードのグループに「表札（タイトル）」をつけます。
- ・カードたちの意味（心）をぴたりと言い表します。
- ・ソフトでズバリの表現で。
- ・元の言葉の土の香りを残します。

この段階がとても大切であるため、十分に時間をかけること。カードの心に聞き、カードが言わんとする言葉の奥を汲み取る。

表札は新しいカードに赤字や青字などで書く。

・カードのグループは、まず小グループを作り、次に小グループ同士で中グループを、そして中グループ同士で大グループを作っていきます。